緑の地球　第138号　2011年3月15日発行　年6回・奇数月15日発行　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）定価300円　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目4-24 住宅情報ビル5F　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
IP電話 050-3119-0204　郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gentree @ s4.dion.ne.jp　URL（ホームページ）：http://homepage3.nifty.com/gentree/

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

20年というので懐かしい写真をだしてみました。最初の小学校付属果樹園起工式。1994年4月、霊丘県下寨北村にて。

Contents

●第17回会員総会のご案内 …… P 2
●緑の地球環境センターの計画 …… P 4
●ワンワールドフェス・自然と親しむ会報告 …… P 5
●宇久須スローライフ部会＋GEN関東ブランチ …… P 6

2011.3

138

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送る etc.　★あなたのご参加を待っています！

緑の地球ネットワーク 第17回会員総会のご案内

緑の地球ネットワーク（GEN）は、節目の20年目をむかえました。活動開始当初に植えたマツはすでに樹高3mを超え立派な林となり、小学校付属果樹園のアンズも村に豊かな実りをもたらしています。一方、枝打ちや間伐といった手入れが必要になり、また、山火事も心配です。異常気象のためか、4月、5月の寒波が、アンズの花や幼い実を傷めてしまうのも頭がいたい問題です。取り組むべき課題は次々とでてきます。

昨今のぎくしゃくした日中関係もあって、「どうして中国に援助するのか」という声が大きくなっています。しかし、反日に嫌中でこたえていては、いつまでたってもいい関係は築けません。こんなときだからこそ、GENは顔の見える草の根の協力をつづけて、日中双方の理解を深める助けになれると考えます。さいわい、私たちには20年かけて築いてきた信頼関係があります。その信頼に基づいた協力の輪を、いっしょに広げていきましょう。

今年は、2年に1度の役員改選の年です。また、20年の記念行事にも取り組む予定です。

もちろん大同では、新しい協力拠点「緑の地球環境センター」の建設運営がはじまります。

会員総会に参加して、そういった動きを実感してください。

また、今回、記念講演に山田健さんをお迎えします。サントリーのコピーライターで作家でもある山田さんのお話も楽しみです。

【緑の地球ネットワーク
第17回会員総会】

●日時：6月11日（土）13時30分～16時40分
○記念講演：13時30分～15時
『水をはぐくむ森づくり』（仮）
◇講師：山田健さん（コピーライター、作家、サントリーホールディングス社員。著書に『遺言状のオイシイ罠』、『ゴチソウ山』など）
○会員総会：15時20分～16時40分
●場所：大阪市立弁天町市民学習センター講堂（大阪市港区弁天1-2-2-700オーク2番街7階　Tel. 06-6577-1430
JR環状線／地下鉄中央線「弁天町」駅より直通通路あり）
●総会終了後の懇親会は調整中です。

さらなる仲間の輪を広げよう
会員拡大にご協力ください

●20年つづけてきた意義

緑の地球ネットワーク（GEN）は、今年で20年目をむかえました。その間のさまざまな困難を乗り越えてここまできたのは、会員・協力者のみなさんのおかげです。ただ、長くつづいてきた団体の常でしょうか、最近は新しい会員がなかなか増えず、会員数が減少傾向にあります。特に関西で顕著です。

新しく「緑の地球環境センター」を建設運営することになり、GENはさらなる力を必要としています。会員からの支援は、GENの活力の源です。助成金では手当がむずかしい会の運営費のサポート、ボランティアでお手伝いいただくこと、自然と親しむ会や勉強会などでお目にかかれること、メールやお手紙で励ましの言葉をいただくこと、折にふれてお寄せいただくカンパ、そしてなによりこれだけの人・団体がGENの活動に賛同し、協力してくれるということが、日中双方のスタッフに、また大同の農村の人たちに、どれだけ励みになるか言葉につくせません。

まだ会員でない方は、ぜひ会員になってください。また、周囲の方に「こんなことをやっているんだよ」と声をかけ、仲間の輪を広げてください。

最初の緑化協力団の団長、石原忠一顧問は「この協力は20年はつづけます」と大同でスピーチしました。植樹造林は時間がかかる仕事です。20年というのは、植えた木が林になり次の世代が育つようになるころ、という意味であり、植えたかぎりは、植えただけで終わるのでなく、その先まで見届ける心構えの表明でもありました。一般的に3年、5年で完結する国際協力の中で、同一箇所で20年つづいているGENの協力は実はかなりめずらしいケースです。私たちは貴重な経験を積み重ねてきているのです。

●この目で見てきた中国の変化

この20年で中国の事情は激変しました。「経済発展のためなら環境破壊・汚染もいとわない」状況から、国をあげて緑化に取り組むようになり、また、四川地震の時はたくさんのボランティアが活動しました。一方で発展から取り残されていた大同では、ここ2、3年の市街地開発はすさまじいものです。変わらないかにみえた農村さえ、出稼ぎがふえ、環境の厳しい村は廃村にして豊かな村に併合する、など、やはり変化をはじめています。

●進化するGENの緑化協力

GENの協力も、苗木代をおくるだけだった初期から、経済面のサポートもめざした小学校付属果樹園建設、さらに技術面を強化するための緑化協力拠点建設・運営へと変化・発展してきました。それにともない、現地のスタッフの緑化への理解もすすみ、さらなる熱意をもって仕事に取り組んでいます。

木を植えるだけではない、多様性のある森林再生をめざした緑化協力はGENならではのものであり、日中双方のブレーン・スタッフも充実しています。その活動を支える会員・支援者を求めています。黄土高原に森林再生のモデルを残そうと奮闘するGENに、さらなる応援をお願いします。

働きかけのためにリーフレットや会報などが必要な方は、GEN事務所までご連絡ください。

いますぐできるGENへの協力

■会員になってください！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員	12,000円
家族会員（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費には会報購読料が含まれています。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■みみずく基金にご協力ください！

緑色地球網絡大同事務所直轄プロジェクトの運営を支えるために、1口1万円で寄付を募っています。A.緑の地球環境センター、B.霊丘自然植物園、C.白登苗圃、D.かけはしの森、E.カササギの森の5つからお選びください。指定のない場合は、事務局で決めさせていただきます。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。GENへの寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

＊みみずく基金、緑化基金の20％は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』をご利用ください

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。Eメールでは味気ない、あたたかいメッセージを送りたい、そんなときにぜひご利用ください。

絵はがき『黄土高原の花』8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）

絵はがき『中国・黄土高原』撮影：橋本紘二　春／夏／秋・冬／緑化　各8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）継続販売中です。

■ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円（送料別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。

■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【GENは認定NPO法人です】

2005年6月から国税庁により認定NPO法人の認定を受け、09年6月から第3期目の認定が決まりました。今回の認定期間は5年間です。

GENへの寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額－2,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

2011年は国際森林年です！

2011年は、国連が定めた国際森林年です。世界の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めようというものです。日本でも、森林林業再生や美しい森林づくり、途上国の森林保全等に対する理解の促進を目的に、様々な活動が予定されています。

また、リオの地球サミットから20年ということで、「生物多様性の10年」の最初の年でもあります。たくさんの生物種が絶滅の危機にある現在、私たちの生活を見直し、環境にかける負荷を少しでも小さくする努力をはじめるときです。

緑の地球環境センターの計画

高見 邦雄（GEN 事務局長）

1995 年以来､私たちの協力拠点であった環境林センター（南郊区平旺郷）が大同市の生態公園に生まれ変わることになり、大同市の耿彦波市長はかわりに大同県周士庄鎮におよそ 18ha の土地を提供してくれました。

市の将来計画でここは馬鋪山森林公園の入口にあたります。馬鋪山は古名を白登山といい、漢の高祖劉邦が匈奴の冒頓単于との決戦に挑み、逆に 7 日 7 晩包囲され、命からがら逃げ延びた古戦場です。

地元の人たちや日本の専門家と相談を重ね、建設計画を煮詰めてきました。いよいよこの春の着工です。たくさんのかたに提案をいただき、最終的に名称を「緑の地球環境センター」に決めました。

大きく 3 つの部分に分けて建設します。第 1 は生態植林見本園です。私たちはこの 20 年間、現場での緑化活動とあわせて、この地方の環境にあったさまざまな森林再生の方法を検討し、その一部を実施してきました。喬木、灌木、草などを組み合わせてさまざまな具体的な方法を提案します。

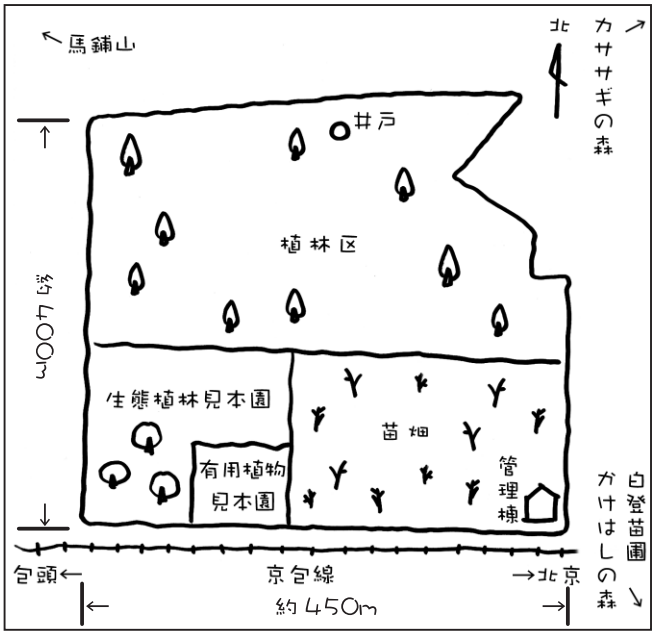
第 2 は有用植物見本園です。これには薬草・薬木をふくめます。中国側で現在すすめられている緑化活動はごく少数の樹種を一斉に植えていて、問題を感じることが少なくないのですが、中国には生物多様性を重んじた伝統があります。『本草綱目』です。そして大同の周囲の農山村は薬草の産地として有名でした。それらを収集すると同時に、貴重種の保存をめざします。医療・保健関係者など新しい方面へも協力関係を広げたいと思います。

第 3 は苗畑です。「苗半作」という言葉の意味は、苗のできしだいで半分は決まる、ということですが、黄土高原の厳しい環境で緑化を成功させるためには、苗木のよしあしが成否を決めます。菌根菌の活用など、これまでに蓄積した技術を全開します。また、さまざまな実験や研修の場として生かします。

私たちは大同で 20 年間にわたって活動をつづけ、さまざまな経験や技術を積み上げてきました。その集大成としてこのセンターを建設し、それを足がかりに協力プロジェクトの発展を実現したいと思います。

施設としては、管理棟（実験室・作業室など）、電力導入、井戸と灌漑施設、ビニール温室、作業道などにとりかかります。

このプロジェクトには JICA 草の根技術協力事業の受託が内定しています。また、昨年から呼びかけている新拠点建設のために、140 人（団体を含む）のかたから 4,459,905 円の寄附をいただいています。ご協力に心から感謝いたします。



夏の黄土高原ワーキングツアー予告

穏やかならないご時世のせいか、なかなか申込みがこなくて気をもんだ春の黄土高原ワーキングツアーは、おかげさまで 20 名を超えました。参加者のみなさんに有意義なツアーとなるよう、がんばります。

さて、夏のツアーの日程が決まりました。費用、スケジュール等詳細は未定ですが、次号でご案内いたします。

昨年と同じく、高山植物を楽しめる少し遅めの日程です。「夏に行くよ！」という方、いまから予定にいれておいてください。

●日程：8 月 20 日（土）～ 26 日（金）
●参考費用（昨年実績）：165,000 円（燃油特別付加運賃等別途）※関空発着。羽田／成田利用希望の場合は別途航空運賃差額分が必要。
●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）
●定員：35 人程度
●最小催行人数：12 人

会報 5 月号で詳しく案内しますので、資料請求はそれ以降にお願いいたします。

緑の地球ネットワーク年会費……一般会員＝ 12,000 円・家族会員＝ 6,000 円・学生会員＝ 3,000 円

ワン・ワールド・フェスティバルに参加して

大原　一晃（大学院生・GEN 会員）

２月５日、６日、大阪国際交流センターでワン･ワールド･フェスティバルが開かれ、17,500 人が来場。GEN のブースを手伝ってくれた方、ありがとうございました。

NGO や民間企業、政府系団体などなど、国際協力をおこなっているさまざまな団体がブースを構えていて、非常に賑わっていました。午前中ぶらぶら他の団体を見て回ったのですが、小さな工芸品をずらーっと並べているブースも多く、「商売してるなー」という印象。また、クイズラリーもあって、自分がもらった用紙に該当するブースを回ってクイズに参加するとスタンプがもらえるという仕組みでした。GEN のクイズは「杏仁豆腐はアンズのどの部分を使っていますか？」

1. 花　2. 果実　3. 種の核

というもの。ブースの中に杏の種（食用）を置いていたのでわかりやすかったですね（笑）。クイズの後、「食べられますよ～」と勧めてみると、「え、食べられるの？」「ピーナッツみたい！」と非常に好評でした。GEN のブースでは、写真パネル展示や切り絵、絵ハガキ、それから「馬につける鈴」などの販売をおこなっていました。

会場の外には露店がずらり並んでいて、いろいろな国の伝統料理が味わえます。私もマラウイ・スリランカ・韓国の料理をいただいてきました。

お昼以降になると会場内も結構混んできて、GEN のブースに立ち寄ってくれる人も増えてきました。私は途中からなぜか写真パネルの解説要員を任され、来場者に GEN の活動を説明していました。水土流出が凄まじいことや植林活動の意義について話したつもりなのですが、説明能力の無さに定評のある私の解説でどこまでお伝えできたのか、少し不安です。

ブースには小学生から年配の方まで、幅広い年齢層の人が訪ねてきてくれました。私と同じ大学生の方も数人、興味を示してくれたので非常に嬉しかったです。「何かボランティアがしたい」といった思いを持っている若者が多いような印象を受けたので、そういう人に参加してもらえるようなイベントを設けてみるのもよいと思いました。

そんなこんなで、非常に楽しい 1 日を過ごさせてもらえました。ぜひみなさんも来年以降~~遊びに~~手伝いに来てみてください！

自然と親しむ会報告～いのちと向き合う有機農業

松永　光平・直子（GEN 会員）

１月 23 日、神戸市西区で GEN 自然と親しむ会「有機農業見学会～持続可能な暮らし方にむけて」を開催、23 人が参加しました。NPO 法人兵庫県有機農業研究会理事長の本野一郎さんの案内で、西区で有機農業をいとなむ渋谷冨貴男さんの畑やハウスを見学、野菜もわけていただきました。

「今日はありがとうございます」。有機野菜農業家、渋谷さんはこう切り出した。案内してくださった畑には、にんじん、ほうれん草や春頃に収穫期を迎えるキャベツ類が並び、ハウスの中には小松菜やカブ、それに野菜の苗が植わっていた。牛と豚の堆肥小屋、ハウスの中にはおからでできた堆肥がおかれ真剣な土作りの様子が伺えた。生活用水と農業灌漑用水の切り分けにもこだわりをお持ちで、汲み上げた地下水を灌漑用水として利用されていた。畦道には多様な雑草が生えていた。長く有機農業に取り組んでこられた誇りを感じた。午後、本野さんのお話しは除草剤から始まった。本野さんは農薬を販売する立場であったが、近代農業を実践した田畑で農民が健康被害で苦しんでいったこと、有機農業の実践は自分たちのいのちを守ることを教えてくださった。

渋谷さんは 17 年前の阪神大震災のことを話してくださった。農地は地震の影響は受けず、水は地下水から供給された。農業は地震では困らなかった、と。

私は「若者は畑を耕さず金儲け。だが、金は煮ても食えない。飢饉になったら飢え死にだ」と話してくれた黄土高原の農民の言葉を思い出した。私たちはいまお金で何でも手に入るのではと錯覚してしまうほど便利な生活をしている。でも農家の人に支えられ、土とのつながりがなければ、生きるために必要な物を手に入れることができない。都市・農村・地球、日ごろ意識しづらいけれど、私たちは大きな循環の中で生きている。今置かれたところでそれぞれにできることは何だろう、そんなことを考える会であった。ありがとうございました。

宇久須スローライフ部会＋ GEN 関東ブランチ　プロジェクト

上田　信（立教大学教授・GEN 世話人）

いま私たちはさまざまな問題に直面しています。

地球温暖化の進展、川や海の水質悪化、高齢者人口の増加、里山の荒廃、深刻な獣害、過労やいじめ……。こうした問題に共通することは、地球の歴史のなかで育まれてきた〈関係性〉が、急速に希薄になりつつある点に求められるのではないでしょうか。

〈関係性〉を回復する、1 つのヒントが緑の地球ネットワークの活動のなかから見えてきました。それは、簡易な炭焼き器。GEN が中国の大同で用いている道具です。会員の 1 人がこの道具を伊豆の宇久須（うぐす）に持ち込んだところ、一気に広がりはじめました。

宇久須は伊豆半島の西岸に位置する美しい町です。しかし、住民の 4 割以上が 65 歳をこえ、休耕田が目立ちます。休耕田を何とかしたいというメンバーが集まった「まちづくり協議会スローライフ部会」。関東ブランチは、昨年から共同して活動し始めました。

スギ林に放置されていた間伐材を玉切りにし、炭焼きにそなえる

活動のなかで、炭焼き器がさまざまな要素を結び合わせる不思議を目の当たりにしました。

放置された間伐材は腐食が進めば、大量の CO_2 が大気に放出さます。しかし整理して炭にすれば、その 80％は固定されます。山に人の手が加われば、野生動物も頻繁には害を為さなくなります。炭を耕地に鋤き込めば作物が豊かに実り、浜に敷けばアサリなどが再生するかもしれません。炭焼きのまわりには、人が群れてきます。炭焼き器の炎は、太古の感性に働きかけます。老若男女が火のまわりに集い、炭焼き器にくべられたサツマイモなどをほおばり、その炎で暖められたイノシシの鍋に舌鼓をうつ。自ら汗を流して育てた作物、里に迷い出た野生動物の生命は、感謝されながら私たちの血肉となっていきます。

炭焼き器のまわりに集まって談笑を楽しむ

炭焼きを軸にした合宿を、今年も実施します。山には私たちが整理した間伐材が山積みとなって炭となるのを待っています。

ぜひこの小さな道具の持つ不思議な可能性を実感してください。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

第２回　５月合宿　参加者募集

◯内容：間伐材の薪割り、無煙炭化器による炭焼き、休耕地での畝立てなどの作業、サツマイモなどの植え付け、イノシシ鍋、宇久須の不思議発見、宇久須の方々との交流会、その他、宇久須の海の幸や西伊豆町や土肥町の公衆浴場も楽しめます。

◯資格：どなたでも参加できます（GEN 会員に限定しません）。子どもも歓迎。

炭を鋤き込んだ畑で作業

◯期間：2011 年 5 月 13 日（金）17 時ごろ集合～ 15 日（日）14 時ごろ解散

※現地集合・現地解散

途中参加・途中離脱、後泊も可能です。事前にご相談ください。

◯場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須

交通費は自己負担：以下、東京からの交通手段の例です。

1）高速バス（新宿～修善寺）＋路線バス　約 7,800 円

2）JR 東海道線（東京～三島）＋伊豆箱根鉄道＋路線バス　約 8,800 円

3）自家用車（東名沼津インターから車で 1 時間半）・駐車料金不要。

中部・関西方面からは、清水～土肥のフェリーを利用する方法もあります。

◯費用：15,000 円：宿泊 2 泊・食費・保険料など。変更の可能性があります。

◯申込み締め切り：2011 年 4 月 10 日（日）。定員 20 名。先着順。

◯申し込み：上田信（関東ブランチ担当世話人　e-mail : ueda@rikkyo.ac.jp　fax. 03-3985-4790）ファックスは立教大学文学部上田研究室あて。氏名（ふりがな）・性別・生年月日・住所・電話番号・電子メールをそえてお申込みください。

◆宇久須プロジェクトは、新しい要素を加えながら、今後も展開する予定です。

◇ 2011 年 11 月合宿の予定　11 月 11 日（金）～ 13 日（日）

◇2012 年 5 月合宿の予定　5 月 11 日（金）～ 13 日（日）

黄土高原史話〈53〉

父帝暗殺の後をうけ

谷口　義介（摂南大学教授）

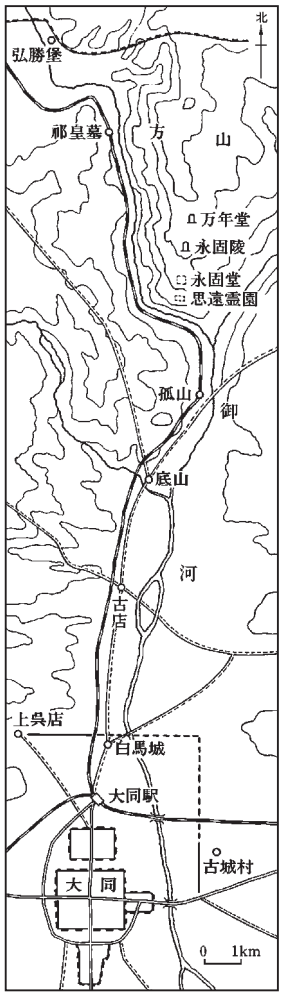
今春のワーキング・ツアーは、参加申し込みの出足が悪いとか。そんなわけで筆者にも、「久しぶりに、いかが？」と声がかかったが、3月末をもって定年退職、ヒマができると思いきや、2つの大学で非常勤。新学期早々に休講はまずい。おりしも本シリーズの正念場、北魏時代の大同の遺跡をめぐってみたいところだが。特に陵墓はまだ見てないし。

さて、北魏の初代道武帝は即位まえの398年、それまであった新平城に本拠を移し、大規模な都づくりに着手する。プラン的には三つの区域よりなっていて、まず北側が宮城で、いまの大同駅周辺で見つかった遺構こそ、その北壁と思われる。北魏時代の灰黒陶片・布目瓦・軒丸瓦が発見され、整然と並ぶ礎石も検出されているからだ。文献によると、宮城内には30以上の宮殿や楼閣があったとか。409年、道武帝が崩じた天安殿もその一つ。宮城の南側が外城で、現在の大同市街の中心あたり。宮城と外城には、貴族・高官の邸宅や諸官庁が建てられた。なべて中国風の意匠です。外城のさらに南が外郭で、こちらは庶民の住宅区と商業区。ちなみに、大同市南郊区にあったGENの旧根拠地「地球環境林センター」から、大量の土器や瓦が出てきたが、その関連の遺跡かも。作業の方はそっちのけ、カケラ拾いに夢中のツアーもありました。

いま建設中の新拠点「緑の地球環境センター」は市街からみて東北方、大同県周士庄鎮にあり、漢と匈奴の古戦場、白登山の麓です。今度は、前漢時代の遺物が見つかるかも。

それはともかく、北魏二代目の皇帝は、父を殺したドラ息子、15歳の拓跋紹ではありません。遊びが好きで、まちのトラブル・メーカー、さすがの帝も手を焼いて、井戸で逆吊りの罰を加えたほどですが、生母の賀夫人が帝の不興を買い殺されかけたのを知って、逆に父を弑殺する。ところで紹には拓跋嗣という異母兄あり、道武帝の長男で世継ぎだが、その生母の劉貴人も帝によって殺された。ときに18歳の皇太子、これを哀しみ「日夜号泣」（『魏書』太宗紀）していると、怒った帝は出頭するよう命じます。いま参内しては危ないと、側近の者から進言され、都の外に出ていた折も折、異母弟による父の殺害事件が発生する。もし宮中にいたならば、父といっしょに殺されていただろう。

事件を知った太子の嗣、急いで宮城に引き返し、紹を誅して即位する。これが、北魏第二代の明元帝（在位409～423）。



その治世14年は、父の拡大した版図を守り、もっぱら内政に意を用いたといえましょう。しかしその最晩年、2000余里の長城を築き北方柔然の備えとするや、慎重派の反対を押し切って、南のかた黄河の渡河作戦を敢行し、洛陽を含む河南一帯を奪取した。

かくて、南北朝対立の形成がほぼ確立することに。

ものの人　この人

向井美香さん（大阪府）

「シンプルイズベスト、は難しい…」

GENに参加して3年目。資源ごみの日が覚えられず、近所のゴミの様子をうかがって、「うちも出さなきゃ」と気がつくエコ音痴な私。たまには勉強しようと、浄水場の見学会に参加。そこで、ネパールの農村から研修に来ていた女性に出会った。

彼女の村では8歳ぐらいから家事や農業の手伝いをする。「化学肥料を使っていたらだんだん作物がとれなくなった。薬で土がダメになったと思う。日本で有機農業を学んで帰り、村をよくしたい」。そう語る彼女は18歳。迷いのない姿勢に感動した。地に足のつかない職業があふれ、生き方の選択肢が多すぎて迷子になる若者が増えている昨今、「たまにはトラも出る」という村でのシンプルイズベストな生活が、ちょっぴりうらやましい。

「小さいうちから家事と農業をしてきたから、上の学校へ行かなくても生きていける」。なんて強い言葉！　あぁ、豊かさはゴミの量に反比例するに違いない。

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

第14回六甲奨学基金のための古本市

六甲奨学基金は、兵庫県下の留・就学生への奨学金や日本語ボランティア教室を支えています。古本市は、基金の募金活動の一環です。

●受付期間：3月1日～31日まで（この期間以外は受け付けられません）
●送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】
・汚れ・破れのひどいものは不可。
・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、文学全集、百科事典等は不可。
・CDも集めます（Video、 TV番組を録画したDVDやコピーCDは不可）。
・お送りいただいた本は返せません。

●送り先・問合せ先：（財）神戸学生青年センター古本市係（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1　tel. 078-851-2760　fax. 078-821-5878　e-mail：info@ksyc.jp　http:// ksyc.jp）
★六甲奨学基金のための第14回古本市
●3月15日～5月15日まで毎日開催 9時～22時　1冊100円～300円

自然と緑 第17期　自然大学 受講生募集

室内講義7回、野外実習7回で自然について学びます。室内講義は近畿中国森林管理局、野外実習は岬町、春日山、金剛山、美山町など。公開講座もあります。詳しくは主催者まで。

●日程：4月10日／**4月17日**／5月8日／**5月22日**／**6月5日**／7月17日／8月21日／**9月25日**／**10月15日～16日**／**11月20日**／12月11日／2012年1月15日／**2月上中旬**／3月18日（ゴシックが野外実習）
●募集人数：50人（18歳以上、先着順）
●受講料：35,000円（実習経費別途）
●問合せ・申込み：NPO法人自然と緑（〒537-0025　大阪市東成区中道3-2-34　tel. 06-6978-5060　fax. 06-6978-5061　e-mail：sizen_mi@osb.att.ne.jp　URL http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/）まで氏名（ふりがな）、年齢、性別、職業、住所、電話、FAX、趣味・特技をそえてお申込みください。

大阪自然環境保全協会 自然環境市民大学 受講生募集

1年間、いっしょに自然環境の保全について学び、取り組んでみませんか。

●期間：4月～2012年3月の37回＋特別（基本水曜日10時～15時30分、一部他曜日もあり）
●定員：35人（先着順）
●申込み締切：3月26日
●受講料：55,000円（分割も可）
●主な実習場所：北摂丘陵、淀川、岬町、奈良公園、甲山森林公園など
●問合せ・申込み：（社）大阪自然環境保全協会市民大学係（〒530-0041　大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神橋202号　tel. 06-6242-8720　fax. 06-6881-8103　e-mail：office@nature.or.jp　URL http://www.nature.or.jp）に氏名（ふりがな）、住所、電話、FAX、メールアドレス、携帯電話、申込日をそえてお申込みください。

東北地方を中心とする大地震・大津波の被災者救援について

2011 年 2 月 11 日、東北地方を中心にマグニチュード 9.0 の巨大地震と大津波が発生し、経験したことのない大きな被害がでています。いまのところ、テレビその他の報道で知るだけですが、あまりの惨状にことばもありません。犠牲になられたかたのご冥福をお祈りし、被災者のみなさんが一日も早く安全と生活を取り戻されることを祈ります。

16 年前、私たちも阪神大震災を体験しましたが、その規模と被害の広がりはケタがいくつもちがう印象です。流れてくる情報は、被害が比較的に軽い周辺地域のものが先行し、被害が深刻なところのものはなかなかでてきません。「死者〇〇名、行方不明△△名」といった発表は、実際とかけ離れているとみていいでしょう。それによって救援の初動が遅れるようなことがあってはならないと思います。「万人を単位とする犠牲者」という発表がありますが、それはほぼ確実でしょう。

現場で被災者の救出にあたっているみなさん、ライフラインの復旧などに努力しているみなさんに心からの敬意と感謝を表します。ひとりでも多くの被災者を救い出し、一日もはやく平穏な生活が取り戻せるよう、がんばってください。

日本社会の全体にとっても大きな試練だと思います。被災者のみなさんの苦しみと悲しみに思いをはせ、その一部を自分で引き受ける気持ちになって、支援をお願いいたします。

被災現地での救出活動は、現段階ではその道のプロしか役に立たないかもしれませんが、やがて大勢のボランティアが必要になると思います。現地に駆けつけることが可能な若ものは、ぜひそうしてください。その経験は自分自身の飛躍的な成長にとって必ずプラスになるでしょう。

現地ではたくさんの物資が必要になります。それはまた時間の経過とともに大きく変化いたします。これまでの経験からみても、現金による協力がいちばん有効です。政府や既成の救援組織だけでなく、多くの民間ボランティアが活躍すると思います。小回りの利くそのような活動のほうが有効である場面も少なくないでしょう。資金面でもぜひ支えてくださるようお願いいたします。とりあえず、これまで私たちもご協力をうけてきたいくつかの募金サイトをご紹介いたします。

寄付サイト Give One（tel. 03-5540-6256）　http://www.giveone.net/
国際協力 NGO センター（tel. 03-5292-2911）　http://www.janic.org/bokin/matomete14.php

なお、仙台市在住の GEN 顧問、遠田宏さんとご家族の無事は確認されております。

緑の地球ネットワーク事務局長　高見 邦雄

慰問

緑の地球ネットワーク事務局長
尊敬する高見邦雄　様

日本の仙台で発生した 9.0 級の巨大地震のニュースを聞き、たいへん驚き、心配しています。大同市総工会と緑の地球ネットワーク大同事務所は、立花吉茂代表はじめ貴組織ならびに被災地区の会員と友人のみなさまにたいし、心よりお見舞い申し上げます。

3 月 11 日の地震発生以来､貴国の被災状況を私たちは見守りつづけています。仙台在住の遠田宏先生をはじめとする会員と友人のみなさんのことがとくに気がかりです。

中国の張家口地震、大同地震ならびに四川大地震の被害を受け、私たちが困難な状況にあったとき、みなさんの組織が私たちのために奔走し、援助してくださいました。私たちはそのことを永遠に忘れることなく、感謝の気持ちをもちつづけています。

貴組織の多くの会員・友人のみなさんと私たちとは、緑化協力を通じて、そして『災害』を通じて、熱い友情を結び、兄弟姉妹の情を深く両国民の心に刻みました。

貴組織及びに被災地区の会員・友人のみなさんがこの困難を乗り切り、平安無事に過ごせる日が遠からずくることを信じています。

大同市総工会主席　　張志偉
大同市総工会副主席　柴京雲
緑の地球ネットワーク大同事務所所長　武春珍
2011 年 3 月 12 日